

緑のまきば

2014年 No.47

小金井緑町教会

小金井市緑町四一六一三三

☎042-381-7961

牧師 山畑 謙

希望の源

説教

2014年度
の聖句

「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。」

(ローマ十五・十三)

山畑 謙

一九七〇年の日本レコード大賞の歌唱賞をとったのは、岸洋子の歌う『希望』という歌でした。「希望」という名のあなたをたずねて 遠い国へとまた汽車にのる」という歌詞で、今日より、より良い世界・社会を希望する大きな時代のうねりを表すものでした。二〇一四年の今、「希望」という言葉聞くことが少なくなつたように思います。「希望」は、もはや錆付いた言葉なのでしょうか。

世界で一番最初の教会と言えば、ペンテコステ(聖霊降臨)の時に誕生したエルサレム教会です。それから

が生きる社会においても然りであり
ます。

当たり前なことですが、基本的に、
人は、みんな違います。それを同じだ
などと思うのは幻想にすぎません。

小さなつまらない好みの問題から、
重大な政治的な判断の問題まで。こ
だわりも違う。美意識も違う。センス
も違う。それを十人十色と言ったり
しますが、その違いが新たなおもしろ
いものを生み出すとポジティブ(肯
定の)に考えられるのならどんなに
いいでしょう。しかし、実際に人との
違いに直面した時、しばしば私たち
は独善的になり、頑なになつてし
まって、自分と違うものを否定して、
隔ての壁を築き上げることが起こり
ます。違う相手を拒絶してしまいま
す。

おそらくその反応は、違いを違
いとして受け止める以前に、違うとい
うことで、自分の価値観や美意識や
思いが否定されているかのように思
い込んでしまうからでしょう。不安
と恐れにかられての一種の被害妄想
的思考です。そこから対話が拒絶さ
れ、断絶の壁が築き上げられていく。
それが露骨に表面化する事もあれば、
逆にお体裁良くしながらも実はきつ
ちりと壁がつくられていたりもする

場合もあります。ローマの教会は、ユ
ダヤ人と異邦人という枠がはっきり
しており、その対立構造がシンプル
である分、わかりやすいといえればわ
かりやすいと言えるでしょう。

喜びと平和に満たされ、明るい希
望に満たされた群れとして教会が成
長する。それは絵に描いた餅でも、お
体裁の言葉でも断じてありません。
それを本気になつて信じて祈り求め
ようとするのです。なぜならば、希望
の源である神が、御子イエスによつ
て、全き罪の赦しという救いを与え
て下さったからに他なりません。主
に赦されたということは、この自分
が受け入れられた、肯定されている、
という確信と平安となるのです。思
想や趣味が肯定されるというレベル
ではなく、根源的な存在そのものが
肯定されたということです。

「希望」という言葉の裏側には「主
にありて安し」と書いてあるでしょ
う。他の人といろいろな違いがあつ
ても、この救いにおいて一致するこ
とができる。ですから、ひたすらその
一致点に立ちながら、互いに受け入
れ合い、謙遜に知恵をつくして歩み
寄り、あるいは積極的の違いを生か
して変革していくというのが私たち
の道です。